

次回の物構研サイエンスフェスタ (第6回 MLF シンポジウム / 第32回 PF シンポジウム) 開催のお知らせ

物構研サイエンスフェスタ実行委員長 清水伸隆
副委員長 川北至信

次回の物構研サイエンスフェスタ(第6回 MLF シンポジウム/第32回 PF シンポジウム)を2015年3月17日(火)-18日(水)の日程で開催します。会場はつくば国際会議場(エポカ ルつくば)です。このシンポジウムは、施設側スタッフ、ユーザーの皆様が一堂に会することのできる機会ですので、是非ご参加下さいませようお願い申し上げます。なお、次回も前回同様に MLF シンポジウムとの共同開催となります。

例年通り、前日の3月16日(月)の夕方にユーザーグループミーティングを開催できるように会議室を確保する予定です。詳細が決まり次第ホームページや PF ニュース等で皆様にお知らせ致します。

PF 研究会「放射光イメージングを用いた 産業利用の現状と将来展望」開催案内

(株)日立製作所中央研究所 米山明男

放射光を光源とする X 線イメージング法には、単色、平行ビーム、かつ大強度という通常の実験室系の線源にはない非常に大きな特徴があります。これにより、高精細かつ定量的な三次元の吸収コントラスト像を得ることが出来ます。さらに、最近では X 線の位相情報を利用することで、吸収イメージング法に比べて軽元素に対して 1000 倍以上も感度が高い位相イメージング法も開発され、軽元素で構成された有機材料でも高感度に可視化することが可能になりました。これらの高い可視化能力を利用して、各種の有機・無機材料や製品に関する非破壊の三次元形態観察や機能観察など多種多様な産業利用が行われています。

本研究会では、放射光イメージングを利用している産業各界のユーザーに利用事例として最近の成果をご紹介頂き、産業利用における本法の有用性や解析事例に関する情報交換、および最新の X 線検出器に関する情報交換を行います。さらに、産業利用という視点から次世代放射光施設における放射光イメージングの将来像を展望したいと考えています。

午前中には PF の見学も予定しておりますので、ご興味がおありの方は、奮ってご参加下さい。

<概要>

日時：2014年9月11日(木)

場所：高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパス・
4号館1階セミナーホール

申込方法：研究会ホームページ (<http://pfwww.kek.jp/pf-seminar/2014imaging/>) にてお申込下さい。

交流会：9月11日の講演終了後を予定しております。

問い合わせ先：研究会事務局 高橋良美

Email: tyoshimi@post.kek.jp

プログラム等の詳細は研究会ホームページをご覧ください。

企業研究者向け XAFS 講習会開催のお知らせ

先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業

君島堅一、須田山貴亮、古室昌徳

放射光科学第二研究系

木村正雄、阿部仁、仁谷浩明、武市泰男、丹羽尉博

XAFS 法の新たなユーザーを開拓するために、企業研究者向けの講習会を開催致します。本講習会は、これから PF において XAFS 測定を行ないたいと考えている方々を対象としています。XAFS の原理・実験方法などの基礎に関する講義と、実際の実験ステーションを用いた測定実習を2日間で集中して体験していただく予定です。放射光を利用した実験方法のなかで、X線吸収微細構造(XAFS: X-ray Absorption Fine Structure)法は、原子の価数や近傍の原子との配位・結合状態に関する情報を得ることができる手法です。試料の状態、雰囲気等の自由度が大きく、また、動的な変化を観測することが可能であります。最近では、燃料電池の電極触媒や各種二次電池・触媒材料を実動作環境に近い状態で測定し、反応機構の解明に利用されるなど、先端材料の研究開発には欠かすことが出来ない存在です。ご興味がある方のご応募を是非お待ちしております。

日程：2014年12月4日(木)・5日(金)(予定)

場所：高エネルギー加速器研究機構(KEK)・
放射光科学研究施設(PF)

参加費：無料(ただし、旅費等の支援はありません。)

対象：XAFS に興味がある、民間企業の研究者

※今回は大学もしくは公的研究機関からの応募は対象外とさせていただきます。

定員：20名程度(申し込み多数の場合は、調整させていただきます。)

申込み方法：詳細な情報は Web からご確認ください。

(<http://pfwww.kek.jp/innovationPF/XAFSseminar2014/>)

PF Activity Report ユーザーレポートと 終了届の一本化について

2014年6月6日掲載
2014年7月10日改訂
放射光科学研究施設長 村上洋一

物質構造科学研究所・放射光科学研究施設 (Photon Factory) では、これまで課題責任者の皆様に Photon Factory Activity Report (PFACR) のユーザーレポート執筆と終了届の提出をお願いして参りました。今後運転時間の復活等に向けた取り組みのためには PF を使った皆様の成果を広く PR することが必要であることを考え、このたび PFACR (ユーザーレポート) の提出を義務化させて頂き、終了届に代えることに致します。各課題責任者の方々には、原則として一課題につき少なくとも一報の PFACR (ユーザーレポート) の提出をお願いします。ただし、諸般の事情により実験を実施できなかった場合等については、従来の終了届を提出をお願いします。詳細は、放射光科学研究施設共同利用の手引きの“6. 実験が終了した時” (http://pfwww.kek.jp/users_info/users_guide/tebiki_t.html#chapter1_6) をご参照下さい。

昨今の厳しい財政状況等もあり、ユーザーの皆様を行政機関や国民に示していくことが重要ですので、本件について何卒ご理解とご協力のほど宜しくお願いします。

なお、迅速な情報発信のために、PFACR (ユーザーレポート) は随時受付・随時公開の体制に移行しました。お寄せいただいたレポートは、所内スタッフによる簡単な確認作業の後、PFACR 2013 Users' Report のホームページ (http://pfwww.kek.jp/acr2013pdf/part_b.html) に随時公開されます。

PFACR 2013 の原稿の締め切りは、「2014年7月16日(水)」です(注:7月17日に、締切が7月25日(金)まで延長されました)。その後、提出頂いた原稿は、PFACR2014 として出版されることになります。ユーザーレポートを執筆される際は「Photon Factory Activity Report 2013 に掲載されるユーザーレポート執筆のお願い」のホームページ (<http://pfwww.kek.jp/acr2013/editj.html>) をご参照下さい。

皆様のご寄稿を宜しくお願いします。

平成 27 年度前期 フォトン・ファクトリー研究会の募集

放射光科学研究施設長 村上 洋一

物質構造科学研究所放射光科学研究施設 (フォトン・ファクトリー) では放射光科学の研究推進のため、研究会の提案を全国の研究者から公募しています。この研究会は放

射光科学及びその関連分野の研究の中から、重要な特定のテーマについて1~2日間、高エネルギー加速器研究機構のキャンパスで集中的に討議するものです。年間6件程度の研究会の開催を予定しております。

つきましては研究会を下記のとおり募集致しますのでご応募下さいますようお願い致します。

記

1. 開催期間 平成 27 年 4 月～平成 27 年 9 月
2. 応募締切日 平成 26 年 12 月 19 日 (金)
[年 2 回 (前期と後期) 募集しています]
3. 応募書類記載事項 (A4 判, 様式任意)
 - (1) 研究会題名 (英訳を添える)
 - (2) 提案内容 (400 字程度の説明)
 - (3) 提案代表者氏名, 所属及び職名 (所内, 所外を問わない)
 - (4) 世話人氏名 (所内の者に限る)
 - (5) 開催を希望する時期
 - (6) 参加予定者数及び参加が予定されている主な研究者の氏名, 所属及び職名
4. 応募書類送付先 (データをメールに添付して送付)
放射光科学研究施設 主幹秘書室 石川 銀
Email:gin.ishikawa@kek.jp TEL: 029-864-5196

なお、旅費、宿泊費等については実施前に詳細な打ち合わせのうえ、支給が可能な範囲で準備します (1 件当り上限 50 万円程度)。開催日程については、採択後に PAC 委員長と相談して下さい。また、研究会の報告書を KEK Proceedings として出版していただきます。

KEK 一般公開のお知らせ

一般公開実行委員会
放射光科学第二研究系 仁谷浩明, 川崎政人

今年の KEK 一般公開は、『宇宙・物質・生命』というテーマで9月13日(土)に開催されます。高エネ機構にある多くの施設が公開されますので、これまで足を踏み入れたことない施設を見学されてみてはいかがでしょうか。PF では世界結晶年にちなみ、「結晶」をテーマとした各種展示を行います。また物構研展示コーナーも設けられ、中性子、ミュオンを使用した J-PARC での研究内容や、低太陽電子施設での研究内容についての展示も行います。また、次世代光源のための研究開発の紹介として、昨年度に引き続き ERL 開発棟においてコンパクト ERL の展示も行います。研究本館小林ホールで行われる特別講演では、「ポリ

酸の化学—結晶構造が解き明かす酸化物の多彩な姿」と題しまして日本大学の尾関智二教授に講演を行って頂く予定です。また、4号館セミナーホールで行われる講演において、放射光関連ではKEK物構研の木村正雄教授に「放射光を使って身近な現象の不思議に迫る～鉄はなぜさびる？排気ガスをクリーンにするには？～」と題した講演を行って頂く予定となっております。当日はKEK内の各施設において、加速器、実験機器、研究成果の工夫をこらした展示や、科学おもちゃの実演などが行われる予定です。小さいお子さんからお年寄りの方まで楽しめるような企画が盛りだくさんですので、放射光ユーザーの皆様も、普段とは異なるKEKを楽しんでいただけたらと思います。ご家族、ご友人お誘い合わせのうえ、KEK一般公開にお越しいただけますよう職員一同心よりお待ち申し上げます。つくばセンター（つくばエクスプレス「つくば駅」下車すぐ）とKEKの間は当日無料送迎バスが運行されます。また、機構内の移動には無料巡回バスが運行されます。KEK一般公開に関する詳細は、<http://openhouse.kek.jp/>をご参照ください。

1. 日時：2014年9月13日（土）9:00～16:30

2. 公開施設等：

フォトンファクトリー、ERL開発棟、電子陽電子線形加速器、SuperKEKB加速器、Bファクトリー筑波実験棟・展示室、先端加速器試験棟、超伝導リニアック試験施設棟、先端計測実験棟、コッククロフト・ウォルトン型高電圧加速器、放射線科学センター、計算科学センター、機械工学センター、超伝導低温工学センター、常設展示ホール「KEKコミュニケーションプラザ」など

3. 展示等：

国際共同実験（CERN-LHC ATLAS 実験など）、大強度陽子加速器施設 J-PARC（T2K ニュートリノ振動実験、ハドロン実験など）、素粒子理論研究、史料室展示など

4. 特別講演：

■特別講演（小林ホール）：

◇ 10:00～11:00 「ポリ酸の化学—結晶構造が解き明かす酸化物の多彩な姿」

尾関 智二（日本大学文理学部化学科 教授）

◇ 14:00～15:00 「宇宙マイクロ波背景放射 138 億年の旅」

羽澄 昌史（KEK 素粒子原子核研究所 教授）

■講演（4号館セミナーホール）：

◇ 11:00～11:45 「ミューオンで迫る素粒子物理の謎」

三原 智（KEK 素粒子原子核研究所 教授）

◇ 13:00～13:45 「放射光を使って身近な現象の不思議に迫る～鉄はなぜさびる？排気ガスをクリーンにするには？～」

木村 正雄（KEK 物質構造科学研究所 教授）

◇ 15:00～15:45 「人類の宿題、質量のなぞに迫る、国際リニアコライダー計画」

栗木 雅夫（広島大学先端物質科学研究科 教授）

5. その他の主な企画：

- ラジオを作ってみよう
- 科学おもちゃであそぼう
- 霧箱教室
- 理論クイズ王決定戦

防災・防火訓練のお知らせ

放射光科学第二研究系 防火・防災担当 山田悠介
丹羽尉博

高エネルギー加速器研究機構の本年度の防災・防火訓練が2014年10月21日（火）13:30頃より実施されます。

訓練では、緊急地震速報が発令された場合の対処、地震発生後の機構指定避難場所（PF ニュース裏表紙参照）への避難・誘導、避難場所での職員・ユーザーの安否確認などを行います。訓練当日はまだユーザー運転ではない予定ですが、実験準備などでPFに滞在中の方は参加して頂きますようお願い致します。訓練は30分間程度の予定です。

東日本大震災が発生した日はその日の朝に運転が終了し、実験ホールにはユーザーの方はあまりいらっしゃいませんでしたが、これまで毎年ユーザーの皆様にもご協力いただき訓練を行っていたこともあり、ユーザー・職員は訓練どおりに避難し、安否確認なども迅速に行うことができました。実験装置の転倒・落下などの被害はあったものの、幸いにして人的被害が全くなかったことは、日ごろのユーザーの皆様との防災意識と、毎年の防災・防火訓練に起因していると確信しております。

PFでは、多くのユーザーが閉じられた空間で実験を行っており、放射線や化学薬品、高圧ガスなども扱っていますので、非常時には迅速な対応が取れるよう、日頃の訓練が極めて重要と考えています。一人でも多くの方に参加していただけますようご協力をよろしくお願い致します。

平成27年度前期共同利用実験課題公募について

高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所の放射光科学研究施設（フォトン・ファクトリー）は、電子蓄積リングから放出される放射光を用いて研究を行うための全国共同利用研究施設です。下記の要領で共同利用実験課題を公募します。なお、低速陽電子実験施設の共同利用実験課題を併せて公募します。課題審査等は放射光共同利用に準じて行われます。

次回の公募は10月上旬から受付開始し、締切は11月中旬を予定しております。申請は専用Webページ（<https://pmsweb.kek.jp/k-pas>）にアクセスして、必要事項を入力して下さい。これまでPFを利用されていない方は新規にユーザー登録が必要になりますので、余裕を持って申請くだ

さい。締切時間は Web システムで設定されており、少しでも締切時間をすぎますと受け付けられなくなりますので十分ご注意ください。2月に審査結果の速報が電子メールで送られる予定です。採択された課題は平成27年4月に有効となり、実験が開始できます。

【概要】

応募資格者は国立、公立及び私立大学、国立、公立研究所等の研究機関の研究者、又はこれらに準ずる研究者に加えて、科学研究費補助金の申請資格を有する機関に所属する研究者が研究成果を無償で社会に還元することを主目的とする研究等も含まれます。軍事目的の研究はできません。

所定の手続きに従って共同利用実験申請書を提出し、課題審査委員会で採択された場合は無償で実験を行うことが出来ます。原則として評点の高い課題から順に**チームタイムが配分されます**。実験参加者（研究者および大学院生）は規程に従い、図書室の利用等の便宜供与を受けるとともに、機構内の宿泊施設を利用し、旅費、宿泊費等の支給を受けることができます。

利用できるビームライン・実験装置については「フォトンファクトリーの実験ステーション・実験装置」(http://pfwww.kek.jp/users_info/station_spec/index.html)を参照下さい。

【研究成果の公表】

実験の結果は公表（学術論文、学位論文、Activity Report、学会口頭発表等）していただきます。論文には使用した施設名、ビームライン名を明記して下さい。謝辞には以下の様に課題番号を記載して下さい：This work has been performed under the approval of the Photon Factory Program Advisory Committee (Proposal No. 2014G123)。

放射光共同利用実験結果が少しでも含まれる学術論文、学位論文などを発表された場合にすみやかに PF 出版データベース (http://pfwww.kek.jp/users_info/users_guide/pubdb.html)、学位論文データベース (http://pfwww.kek.jp/users_info/users_guide/thesispubl.html) に登録し、別刷りまたは PDF ファイルをお送りください。成果を記者発表する場合には事前にビームライン担当者および物構研広報 (imss-pro@ml.post.kek.jp) にご連絡ください（参考：「成果発表について」<http://imss.kek.jp/howtopress/index.html>）。

実験の成果およびそれにかかわる知的財産権の専有を希望される場合は、下記研究協力課共同利用支援室共同利用係にご相談下さい。本共同利用実験により得られた知的財産権の帰属については、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構知的財産取扱規程に基づき、その都度協議することになります。

過去に採択され、実施された課題が複数ある場合には、それらの課題による PF 出版データベースへの登録状況が審査に際して考慮されます。その基準は以下の通りです。

申請課題の採択時から遡り、課題の有効期間が終了して1年から6年経過した課題（P型課題を除く）が3件以上ある場合について、

1. 採択課題数の1/3以上の課題について論文が登録されていない実験責任者に事情を照会する（yellow card 調査対象）。
2. 調査の回答に基づき、問題点の解析を行う。
3. 回答がない実験責任者の申請課題は不採択とする。
4. 論文登録の少ない実験責任者の申請については、実験責任者からの回答、該当期間の課題に関する論文登録状況、学位論文等の登録状況を考慮し、PAC分科会で評点の減点を提案し、PACで決定する。減点は以下の基準で行う。
 - * 2/3以上の課題について論文登録がない場合は、-1.0を基準とする。1/3を越える課題について論文登録がない場合は、-0.5を基準とする。

【課題のカテゴリー】

課題のカテゴリーには、一般的な実験（G型）、初心者による実験や予備実験（P型）、緊急かつ重要な実験（U型）、特別型（S1, S2型）、新しく新設された大学院生奨励（T型）課題等があります。それぞれのカテゴリーの特徴、審査基準などの詳細はPFのWeb (http://pfwww.kek.jp/users_info/pac_application/category.html) をご覧下さい。P型課題（2014年5月～）、U型課題の申請は、随時受け付けています。

【審査について】

◆申請のあった実験課題は、当研究所に設置された放射光共同利用実験審査委員会（PF-PAC）で審査し、運営会議の議を経て、所長が採否の決定をします。なお、緊急かつ重要な実験課題（U型）、初心者・予備実験（P型）については、申請書受理後、直ちにレフェリーの意見を徴し、その意見を参考にして、その都度、採否を決定します。

◆申請書には一つの研究課題に関する研究内容・計画を記し、関連性の薄い複数の研究課題を列記しないでください。審査は申請書に記述された研究の内容について行ないますので申請書は具体的に記述して下さい。

◆すでに述べましたが、これまでに実験をされた方からの申請については、それらの課題に関する論文登録状況も審査の対象となります。PF出版データベースおよび学位論文データベースへの登録を予め確認してください。登録状況が宜しくない場合は、課題審査に先立ち電子メールで事情説明を求めます。回答がない場合は、不採択となります。速やかに回答してください。

◆審査結果は、実験責任者および Contact Person in Japan（国外からの申請の場合）にお知らせします。

◆S2型の審査は、書面審査の後、評定者（5人以上）等を対象に口頭説明を行ないます。採択の後は、毎年PFシンポジウムで進行状況を報告して頂き、PF-PACで評価されます。採択されたU型課題はPFシンポジウムで報告していただきます。

◆P型（予備実験・初心者実験）の申請に当たっては、実験ステーション担当者との事前打ち合わせが必須です。十分な時間的余裕をみた上で、実験ステーション担当者と技

術的なことについて緊密に打ち合わせて下さい。また、初心者型の実験には経験者を加えることが出来ません。

◆T型課題(最長有効期間3年)は、大学院学生(博士後期課程在学者もしくは博士後期課程進学予定の修士2年生)が申請することができます。この課題に関する研究は、大学院学生の所属大学側とPF側とで共同で学生指導を行うこととなります。申請にあたっては、申請者、大学側指導教員とPF側受け入れ担当教員との間の十分な事前打ち合わせが必要です。申請を検討する場合は、早めにPF側に相談して下さい。審査は書面審査後に評定者(3名)等を対象に口頭説明を行います。採択の後は、毎年PFシンポジウムで進行状況を報告して頂き、PF-PACで評価して助言を行います。

◆本公募により提供された個人情報、課題審査および課題採択後に共同利用実験を円滑に実施するための連絡等の目的で利用いたします。また、採択課題については、本機構のホームページ及び刊行物に実験責任者氏名・所属及び実験課題名等を掲載することをご了承下さい。

【ビームタイム配分】

課題審査では学問上の価値、技術的な実行の可能性に重点を置いて申請書の評価を行い、最高5点で評点を付けます。このため、課題が採択されたことは必ずしもビームタイムを申請されたビームタイムの配分を約束するものではありません。ビームタイムの配分は、課題の評点を考慮して、運転期毎に行われますので、使用するビームラインの担当者と連絡をとって下さい。今回採択されたG型課

題の評点分布はp.XXに掲載しています。

【ビームタイム配分と終了届け】

課題採択後は、PF Activity Report(ユーザーレポート)を必ず少なくとも一報提出して下さい。PFACRを課題終了届けとして扱います。諸般の事情により、実験を実施できなかった場合などは従来の終了届けを提出して下さい。

【その他】

◆実験を行うに当たり、放射線業務従事者として登録していただく必要があります。

◆実験を実施する時は、安全確保のため、放射線、化学薬品、有害物質等に関する当機構の諸規則その他の関係法令の規制を受けます。

◆国内の大学等からの利用に当たり、PFのルールに基づき旅費、滞在費のサポートを行います。また、宿舍等は空きのある範囲で利用可能です。2014年度は、G、P、U型課題の関東地区ユーザーへの交通費の支給はありません。
(http://pfwww.kek.jp/whats_new/announce140311.html)

◆(課題の再申請)採択されたけれども評点が低いためにビームタイムが配分されない課題について、より高い評価を得るために再申請を行うことができます。このような申請を提出する場合には申請書の中に再申請であることを明記して下さい。再申請が採択された場合には、いずれかの課題を取り下げさせていただきます。

不明な点は下記までお問い合わせ下さい。

研究協力課共同利用係

Tel: 029-864-5126 Fax: 029-879-6137

Email: kyodo1@mail.kek.jp

予 定 一 覧

2014年

- 8月21日～27日 サマーチャレンジ2014 物質・生命コース
- 9月11日 PF研究会「放射光イメージングの産業利用の現状と将来展望」(KEK・4号館セミナーホール)
- 9月13日 KEK一般公開(KEK)
- 9月18日 第3回物構研特別シンポジウム(KEK・3号館セミナーホール)
- 10月21日 防災・防火訓練
- 10月27日 PF平成26年度第二期ユーザー運転開始
- 11月5日 PF-AR平成26年度第二期ユーザー運転開始
- 12月15日 PF-AR平成26年度第二期ユーザー運転終了
- 12月19日 平成27年度前期フォトン・ファクトリー研究会応募締切
- 12月26日 PF平成26年度第二期ユーザー運転終了

2015年

- 1月10日～12日 第28回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム
(立命館大学びわこ・くさつキャンパス)
- 3月17日～18日 物構研サイエンスフェスタ

※最新情報は<http://pfwww.kek.jp/spice/getschtxt>をご覧ください。

第 28 回日本放射光学会年会・ 放射光科学合同シンポジウム開催要項

1. **開催日** 2015 年 1 月 10 日(土), 11 日(日), 12 日(月・祝)

2. **場 所** 立命館大学びわこ・くさつキャンパス (滋賀県草津市野路東 1 丁目 1-1)

3. **主 催** 日本放射光学会

共 催 立命館大学SRセンター、立命館大学卓上型放射光センター、大阪大学蛋白質研究所、科学技術交流財団あいちシンクロtron光センター、九州大学シンクロtron光利用研究センター、高エネルギー加速器研究機構放射光科学研究施設、高輝度光科学研究センター、佐賀県立九州シンクロtron光研究センター、佐賀大学シンクロtron光応用研究センター、産業技術総合研究所計測フロンティア研究部門、自然科学研究機構分子科学研究所極端紫外光研究施設、SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC)、東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設、東京大学放射光連携研究機構、東京理科大学総合研究所赤外自由電子レーザー研究センター、東北七国立大学東北放射光施設推進室、名古屋大学シンクロtron光研究センター、日本原子力研究開発機構、日本大学電子線利用研究施設、PF-ユーザアソシエーション (PF-UA)、兵庫県立大学 New SUBARU、広島大学放射光科学研究センター、VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会、UVSOR利用者懇談会、理化学研究所放射光科学総合研究センター

4. **組織委員会** ([]は推薦団体, ()は所属機関, ○は委員長)

井田隆 [PF-UA (名大工)]、稲田康宏 [プログラム委員長 (立命館大)]、太田俊明 [実行委員長 (立命館大 SR)]、郭其新 [佐賀大]、加藤健一 [理研放射光セ]、木下豊彦 [学会会計幹事 (JASRI)]、木村真一 [UVSOR 懇 (阪大)]、木村宏之 [東北放射光施設推進室]、熊井玲児 [KEK-PF]、栗栖源嗣 [阪大蛋白研]、解良聡 [分子研]、小池正記 [産総研]、小西啓之 [原子力機構]、櫻井吉晴 [JASRI]、佐々木園 [SPRUC (京都工繊大)]、佐藤仁 [HiSOR]、○篠原佑也 [学会行事幹事 (東大)]、瀬戸山寛之 [SAGA-LS]、大門寛 [VUV・SX 懇 (奈良先端大)]、高嶋圭史 [名大]、竹田美和 [AichiSR]、築山光一 [東京理科大]、寺岡靖剛 [九大]、難波秀利 [副実行委員長、立命館大 SR]、新部正人 [兵庫県立大]、早川恭史 [日大]、松田巖 [東大物性研、東大放射光連携]、村上洋一 [学会会長 (KEK-PF)]、山田廣成 [立命卓上 SR]

5. **プログラム要綱**

- ・ 10 日午後に総会を開催予定です。
- ・ 11 日夕方に懇親会を開催予定です。
- ・ 11 日, 12 日は企画講演, 特別講演, オーラルセッション, ポスターセッション, 企業展示, 施設報告等を行う予定です。

6. **参加費**

	11 月 30 日までに支払	12 月 1 日以降 (現地での支払いをお願いいたします。)
放射光学会員	6,000 円	7,000 円
共催団体(特別賛助団体) 会員・職員	7,000 円	8,000 円
共催団体(上記以外)会 員・職員	8,000 円	9,000 円

非会員	12,000 円	13,000 円
学生会員	3,000 円	4,000 円
学生非会員	4,000 円	5,000 円
懇親会(一般)	6,000 円	7,000 円
懇親会(学生)	3,000 円	4,000 円

- ・ 発表申込時に参加登録を一緒に行っていただきます。その際、参加費および懇親会費の支払いの手続きも行ってください。事前の支払いは、クレジットカード払い、銀行振込が可能です。手続きの方法は、参加登録開始後放射光学会ホームページ上 (<http://www.jssrr.jp>) でご確認ください。なお、参加をキャンセルされた場合の返金はいたしません。
- ・ 参加登録のみの場合も、同じく学会ホームページからできるだけ事前に行ってください。
- ・ 12 月 1 日以降の参加登録、または、11 月 30 日までに事前に支払手続きを行わない場合は、12 月 1 日以降の参加費を現地受付でお支払いください。
- ・ 予稿集の事前送付は行いません。当日現地受付にてお渡しいたします。尚、12 月上旬にホームページ上でアブストラクトを公開予定です。11 月 30 日までに支払を済まされた方には、閲覧のためのパスワードを送付いたします。

7. 発表者資格

日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムの一般講演・ポスターの発表者(登壇者またはポスターの発表の場合は説明者)は、①主催団体の日本放射光学会会員、または、②共催団体の会員か職員に限ります。

- (1) 共催団体の会員または職員で日本放射光学会会員となっていない方は、放射光科学の発展に学会が果たしている役割をご理解いただき、日本放射光学会に入会していただくことを強く希望します。
- (2) 発表申込み時点で上記の資格を有しない方は、発表当日までに資格を取得する必要があります。特に、日本放射光学会への入会申込み手続きを至急行っていただくことを希望します。
- (3) 発表者が日本放射光学会の会員、または共催団体の会員・職員である場合は、共同発表者の中に上記の資格を満たさない方が含まれていても差し支えありません。

8. 発表申込について

・ 受付開始:**2014 年 9 月 1 日(月)**

・ 申込締切:**2014 年 10 月 1 日(水) 17:00 厳守**

申込方法:日本放射光学会ホームページ(<http://www.jssrr.jp>)を通して、発表申込、予稿集原稿提出、参加申込を行ってください。

- ・ ネットワークトラブル回避の為、締切日直前の申込みはなるべく避けて下さい。
- ・ 発表形式:オーラルとポスターがあります。希望される発表形式を選択して下さい。
- ・ 発表番号通知:2014 年 11 月上旬に日本放射光学会ホームページ上で公開いたします。

9. 予稿集原稿について

- ・ PDFファイルで作成の上、発表申込の際に投稿してください。
- ・ 原稿形式 発表 1 件につき、予稿は 1/4 ページ(A6/縦置き)です。(A4 縦置き原稿 4 件を、50%に縮小してA4 縦置きに 4 件並べます。)
- ・ カラー印刷は受け付けませんので、ご了承下さい。
- ・ A4(縦長)に下記の要領で文字を打ち込み、原稿を作成して下さい。
 - ①用紙の余白/上 2.5 cm, 下 1.5 cm, 左右 2.5 cm
 - ②1 行目左端… 実験を行った施設名(12 ポイント)

- ③2 行目中央… 表題(18ポイント)
- ④3 行目… 空ける
- ⑤4 行目中央… 著者名・所属(14ポイント)
- ⑥5 行目… 空ける
- ⑦6 行目… 本文(14ポイント)
- ・ 文字化けを避けるために必ずフォントを埋め込んでファイルを作成して下さい。

10. プログラムの掲載

- ・ プログラムは、11 月上旬に日本放射光学会ホームページ上に掲載いたします。
- ・ 日本放射光学会誌「放射光」**第27巻6号(2014年11月末発行予定)**に掲載いたします。

11. 企画講演の公募

前回と同様に、会員全体から企画講演を公募します。企画講演の形式や応募先・締切等は以下を参照ください。

- ・ 時間配分:1つの企画講演を、趣旨説明を含めて全体で150～180分(2枠)、90～120分(1枠)、60～90分(1枠)の計4枠が用意されています。
- ・ 企画の提案者には、講演の最初に趣旨説明と会期終了後の報告書の提出をお願いします。
- ・ 応募先:日本放射光学会事務局(jssrinfo@jssrr.jp)宛に電子メールで、①企画講演タイトル、②提案理由(200字程度)、③講演者および時間配分を明記し、応募してください。
- ・ 応募締切:**2014年8月29日(金) 17:00**

12. 会場へのアクセス、交通のご案内

○公共機関を利用する場合

JR琵琶湖線

JR京都駅 → JR南草津駅(新快速停車) 料金 320円 約17分

JR南草津駅 → 立命館大学

3番のりば(かがやき通り経由、笠山経由)、

4番のりば(パナソニック東口経由) 料金 220円 約15分

○車を利用する場合

新名神高速道路「草津田上IC」より一般道へ。正門まで3分。



運転スケジュール (Sep. ~ Dec. 2014)

E : ユーザー実験 B : ボーナスタイム
M : マシスタディ T : 立ち上げ
MA : メンテナンス HB : ハイブリッド運転

9月		PF	PF-AR	10月		PF	PF-AR	11月		PF	PF-AR	12月		PF	PF-AR
1(月)				1(水)				1(土)				1(月)			
2(火)				2(木)				2(日)	E	T/M		2(火)	E	E	
3(水)				3(金)				3(月)				3(水)	B	B	
4(木)				4(土)				4(火)				4(木)	M		
5(金)				5(日)				5(水)	B	B		5(金)			
6(土)				6(月)				6(木)	M			6(土)			
7(日)				7(火)	STOP	STOP		7(金)				7(日)	E	E	
8(月)				8(水)				8(土)				8(月)			
9(火)				9(木)				9(日)	E	E		9(火)			
10(水)				10(金)				10(月)				10(水)	B	B	
11(木)				11(土)				11(火)				11(木)	B		
12(金)				12(日)				12(水)	B	B		12(金)			
13(土)				13(月)				13(木)	M	M		13(土)		E	
14(日)				14(火)				14(金)				14(日)	E		
15(月)	STOP	STOP		15(水)				15(土)				15(月)			
16(火)				16(木)				16(日)	HB	E		16(火)			
17(水)				17(金)				17(月)				17(水)	B		
18(木)				18(土)				18(火)				18(木)	M		
19(金)				19(日)				19(水)		B		19(金)			
20(土)				20(月)				20(木)	MA/M			20(土)			
21(日)				21(火)				21(金)				21(日)	E		
22(月)				22(水)				22(土)				22(月)		STOP	
23(火)				23(木)	T/M			23(日)	E	E		23(火)			
24(水)				24(金)				24(月)				24(水)	B		
25(木)				25(土)				25(火)				25(木)	E		
26(金)				26(日)				26(水)	B	B		26(金)			
27(土)				27(月)				27(木)		MA/M		27(土)			
28(日)				28(火)	E			28(金)	E			28(日)		STOP	
29(月)				29(水)	B			29(土)		E		29(月)			
30(火)				30(木)				30(日)				30(火)			
				31(金)	E	T/M						31(水)			

スケジュールは変更されることがありますので、最新情報はPFホームページ(<http://pfwww.kek.jp/indexj.html>)の「PFの運転状況／長期スケジュール」(<http://pfwww.kek.jp/untentitlej.html>)をご覧ください。